

# 「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	相馬市立中村第二中学校、相馬市立中村第二小学校
推進協力校名	

**教員の授業力向上と  
授業の質的改善を目指して**

〈推進地域としてのテーマ〉

昨年度の成果と課題から、今年度中学校においては、「ふくしまの『授業スタンダード』を活用したさらなる学習意欲や新たな課題につなげるための振り返り活動の充実」を、小学校においては「子どもの言葉でつなぐ学び合いの工夫」を研究のテーマとして取組を行った。

〈中村第二中学校〉

## 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について（中村第二中学校）

### (1) 「日々の授業の柱」として

本校の「授業スタンダード」における重点実践事項

- ① わかる喜びを実感させ、見通しをもって粘り強く取り組ませる展開の工夫。
- ② 体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自己の考えを広げ深めるような授業スタイルの工夫。
- ③ 問題点を見いだして解決策を考えたり思いや考えを基に創造したりすることができるコーディネートの工夫。

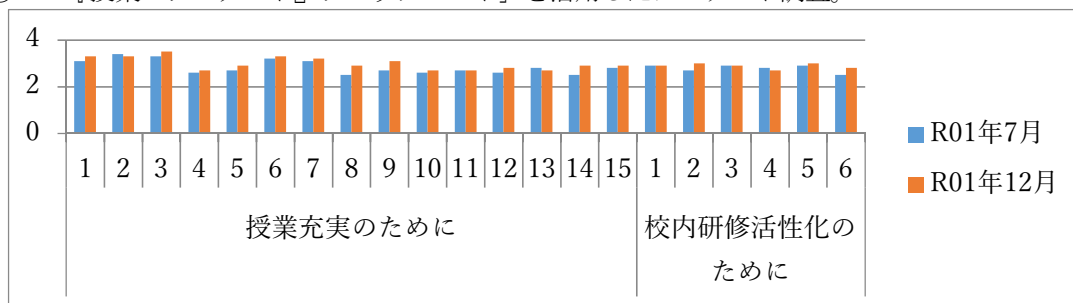


『重点実践事項として』

- ・ 興味関心を高める問題提示の工夫（身近な事象に疑問を持たせる課題提示）
- ・ 本時の学習の目的を明確にした学習課題の設定（何を学習するのか）
- ・ 学び合い形態の工夫（自らの考えを持たせる場と学び合いや話し合い活動の設定）
- ・ まとめの時間の確保（何を学習したか・どのように学習したか）
- ・ 授業と家庭との連携（学習サイクル・学びの連続性）

### (2) 「授業の振り返り」として

- ① 「『授業スタンダード』チェックシート」を活用した互見授業後の振り返り。
- ② 「『授業スタンダード』チェックシート」を活用したアンケート調査。



7月と12月に行ったアンケート調査を比較すると、12月の方が多くの質問項目で7月を上回っており、教員が「授業スタンダード」を意識した授業を行っていることが分かる。

## 2 パイロット校の取組内容（中村第二中学校）

### (1) タテ持ちや教科担任制の具体的な取組について

国語科・数学科において教科のタテ持ちを実施。指導方法の情報交換や授業進度の共通理解と共通実践を行い、3年間の関連性を意識した指導をすることで授業改善へつなげる。

(国語科)

1-1	2-1	3-1
1-2	2-2	3-2
A先生		B先生

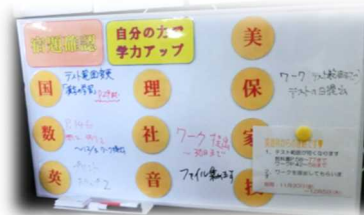
(数学科)

1-1	2-1	3-1	
1-2	2-2	3-2	
A先生	B先生	C先生	D先生

※ 数学科においては、1年生が3/3、2年生は4/4、3年生は3/4をTTで実施した。

**(2) 学習スタイルの確立＝自己マネジメント力の育成**

- ① 学習の目的や心構え、各教科における学習のねらいや授業の受け方等をまとめた「学習の手引き」と、家庭学習の約束ごとや進め方等をまとめた「中村二中版『家庭学習スタンダード』」の活用。
- ② 宿題確認ボードの活用（計画的に学習を進めるため、宿題量の調整のため）



**(3) 教員同士の学び合いについて**

- ① 互見授業の計画と推進
- ② ワークショップ型事後研究会の実施（時系列シートを用いた協議・授業改善シートによる振り返り・「授業スタンダード」チェックシートの活用）
- ③ 推進地域授業研究会の実施

**〈中村第二小学校〉**

「授業スタンダード」を基盤とした本校独自の「学びのスタンダード」を構築するため、教師間で協働研究を推進してきた。「算数好きの子どもを増やしたい。」という思いから始まった研究は、これまでの講義型の一斉授業からの脱却を図り、子ども同士が学び合う主体的で対話的な授業に変わり教師の指導力向上につながってきている。「授業スタンダード」は課題克服のために不可欠なものであり、今後も授業づくりや振り返りに活用していきたい。

**1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について（中村第二小学校）**

**(1) 「学びのスタンダード」研究の基盤としての活用**

- 学習指導要領を理解し、「授業スタンダード」を基に授業のポイントを押さえて授業づくりに活用した。

**(2) 授業の振り返りとしての活用**

- 週案に「授業スタンダード」チェックシートを綴じ、普段の授業の振り返りができるようにし、授業の質的改善に役立てた。

**(3) 研修内容の充実**

- 事前・事後研究協議会では、「授業スタンダード」とのつながりから指導の手立てに焦点化した話し合いを行った。

**2 パイロット校の取組内容（中村第二小学校）**

**(1) 「算数専科制」の指導体制について**

- 5・6年の算数科を教科担任制とし、5年2クラスは全時間、6年3クラスは全体の2/3時間程度を持ち時数とした。1/3時間は担任が実施した。
- 固定時間割をもとに、月ごとに担任と時間調整をして予定を立てた。
- 推進教師がT1になり、専科もしくは担任がT2になりTTによる授業を行った。
- 課題のある単元では、担任と協力し習熟度別学習を実施した。
- 6年担任とは学習進度を確認し、指導方法の共有を図った。



**算数科推進教師の担当時数**

	1組	2組	3組	TT体制
5年	全時数	全時数		T1(推進教師) T2(専科・担任)
6年	2/3時数	2/3時数	2/3時数	T1(推進教師) T2(専科・担任)

**(2) 算数科授業の学習環境整備**

算数科推進員は「算数ルーム」という特別教室で授業を行い、児童は教室から移動して学習する。教室には電子黒板や書画カメラ、タブレットなどのICT機器や算数活動で使用する教材、発表ボードを常備し、いつでも授業の中で活用できるようにした。算数ルームで行う授業は、互見授業として提供し、いつでも自由に参観できるようにした。

### (3) 「学びのスタンダード」研究の実践のまとめ

1年次「問いや思いを引き出す学習提示の工夫」、2年次「問いを連続させるための教師のコーディネート工夫」、今年度は「子どもの言葉でつなぐ学び合いの工夫」をテーマとし、子どもの考えの「取り上げ方」の手法や子どもの考え方の「つなぎ方」の発問、数理に迫るための「問い返し方」の発問を整理しまとめた。

**取り上げ方** つぶやき、発言、発表ボードなどから子どもの反応を見取り、その後の授業展開を見通しながら、取り上げる考えを選択した。

- a つまずき・未完成の考え
- b 数理までは至っていない考え
- c 数理をとらえている考え



教師がどの考えをどの順番で取り上げるかによって授業展開が変わってくる。先につまずきの考えを取り上げた方がその後の展開が拡散した。

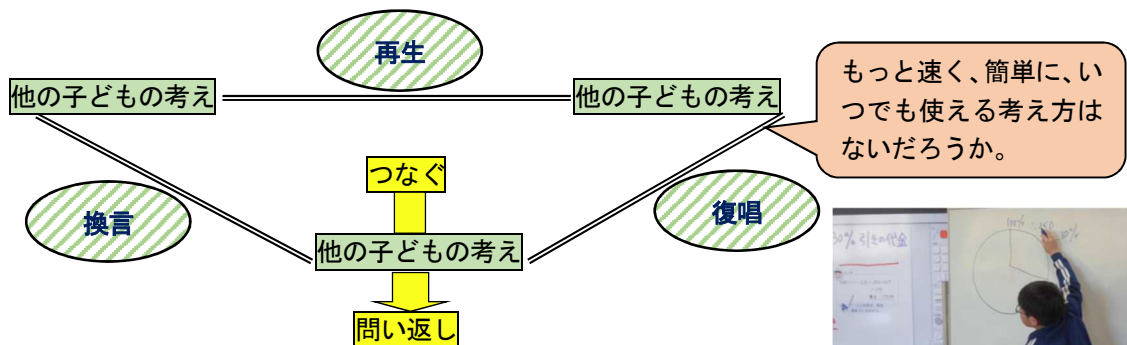
**つなぎ方** 子どもの考えを教師がつないで全員で練り上げ問題解決する。

復唱・・・繰り返すことで意味理解を図る。「〇〇さんの考えをもう一度言える人はいませんか。」

再生・・・伝えることで意味理解を図る。「〇〇さんは何と言ったのか隣の人と確認しましょう。」

換言・・・言い換えることで意味理解を深める。「〇〇さんの言いたいことはどんなことですか。」

**問い返し方** いくつかあげられた考えの中から、最終的に数理に導くための問い返しの質問をした。



## 3 3年間の取組から見た成果と課題

〈中村第二中学校〉

- 課題解決に向けて自らの考えを持ち、主体的に取り組む姿勢が向上した。
- 目的を明確にした話合いから、対話的な学びが定着してきた。
- まとめの時間を確保することにより学習内容を振り返り新たな課題の把握ができるようになった。
- 「授業スタンダード」に基づいて学びを重ねたことなどから、RSTでは昨年と比べ4領域で正答率が大きく上昇し、文章に書かれている意味を正確にとらえることができる生徒が増えた。
- 「学びの連続性」の難しさ ※「課題→追究→解決→新たな課題→追究…」
- 学習過程で「学び合い」を行うことによる授業内のタイムマネジメントとジャンプ課題の設定の難しさ

〈中村第二小学校〉

- 積極的な互見授業を通して研究の課題が明確になり、教師間で指導の手立てを共有できた。
- 教材の出合わせ方を工夫したことで、子どもが追究意欲をもって問題解決するようになり主体的な学びに変わってきた。
- 学習内容の振り返りの場面から、さらに新たな問いを生むことで子どもの思考を高め深い学びにつなげることができた。
- 子どもの考えの「取り上げ方」「つなぎ方」「問い返し方」を研究したことで、子どもが発するつぶやきや発言を大切にするようになり、教師のコーディネート力向上につながった。
- 「学びのスタンダード」研究で培った指導技術を生かし、質の高い授業づくりを目指して継続的に実践していくことが大切である。また、算数科だけではなく、他教科にも指導技術を生かしていきたい。